

人生ハンド仏句

第51号

H.18.6.1
(毎月1日発行)

思いやりの心

住職 谷川寛俊

ある教育団体が、各家庭に配布された張り紙を檀家さんのところで見ました。

三つの不思議な言葉と一つのです。紙には「どうぞ」「ありがとうございます」「ごめんなさい」……
みんなでこの言葉を使いましょう。と印刷されてありました。いい言葉ですね。小さな子供でも読めるようにひらがなで書いてありました。

前に、ある新聞の社説に各種団体の知名人に美しい日本語のアンケートの報告が載っておりまして。そこには、わびとか、さびだとかいったむづかしい言葉もなく、

漢字で書かれる様なものも上位には一つもありませんでした。みなさんが一様に「ありがとう、ごめんなさい」を挙げていました。

他に色々な言葉もありましたが、パーセンテージでは群を抜いていました。

先日長い間床に伏している気ままな姑さんが、それこそ嫁に行った娘をほめることはしても、一緒にいるお嫁さんをほめる事を知らなかったお姑さんが、やがて下のお世話を受ける身になってお嫁さんに、「世話になるネー、ありがとう」と言っているのを聞きましたと、そのご主人からお聞きしました。

ご主人は続けて「素直に母の言葉を受けとってくれる家内に感謝すると同時に、そんなお母さんになってくれた母をつれしく思います。」とつくづく述べ懐(じゅっかい)されてました。どちらが先でもいいと思います。「ありがとう」を心より口にし、又

編集・発行
玉蓮山 真成寺
編集部
TEL・FAX (0765)22-2268
メールアドレス
kokorochantk@ybb.ne.jp
ホームページアドレス
<http://www.geocities.jp/>

その言葉を素直に受け取れる自分でありたいものです。

お互いに持つ仏性、お互いに持っているところの仏心を、仏に成る種を、心より拝みあいたいものです。

法華経の「常不軽品(じょうぶげいひん)の中には、「我れふかく汝らを敬う、敢(あ)えて輕慢せず、ゆえはいかん汝ら皆菩薩の道を行じてまさに仏となることを得べし」とあります。法華経、お題目を唱える者は、相互礼拝の行を、行としてでなく、生活そのものの一つとして実践したいものです。



ほほえみの種は
ほほえみの芽となり
ほほえみの花となる